

平成19年度「専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業」成果報告書

事業名	子育て後に社会復帰を目指す女性を対象とした「サービス介助士」+「電子カルテ」実務教育による就職支援		
法人名	学校法人片柳学園		
学校名	日本工学院専門学校		
代表者	理事長 片柳 鴻	担当者 連絡先	野田 雅司 TEL 03-3732-1146

1. 事業の概要

本事業は、平成18年度に引き続き、「平成17年度 専修学校教育重点支援プラン」で行われた「専修学校における電子カルテ技術者スキル標準とカリキュラム開発」事業で開発した教育プログラムを活用し、『子育て後に再就職を目指している主婦』、および『医療分野への転職を希望して勉強中の離職者』等を主な対象とした短期の教育プログラムを実施し、医療機関への就労を希望する者に現場で必要な電子カルテ操作等のITスキルを身に付けさせることによってキャリアアップをはかることを目的としている。

今年度は「IT化された医療情報を扱える教育」に加え、「サービス介助」のトレーニングを付加することによって、子育て等で医療現場を離れていた者がより一層スムーズに再就職できるよう、双方の講座を短期間で効果的に学ぶことができるカリキュラムを構築、現場への復帰を支援することとした。

2. 事業の評価に関する項目

①目的・重点事項の達成状況

事業を推進するにあたり、医療機関におけるサービス介助スキルに対するニーズを正しく反映させることや、再チャレンジ女性に対する教育ニーズ、電子カルテ稼働状況などの情報を得るため、これまで訪問する機会がなかった地方エリアや、首都圏、大阪といった大都市圏の医療機関を訪問し、それぞれの地域における電子カルテ操作やサービス介助スキルの必要性、および高齢化が進む中で地域医療を支えるための女性再チャレンジのあり方について、直接現場を訪問して担当者へのヒアリングを行った。

電子カルテについては各地で積極的に導入が進められているが、職員のコンセンサスを得ながら時間をかけて導入を検討していたり、施設全体の更新に合わせて導入の準備を進めているというケースが目立った。電子カルテをはじめとしたパソコン操作スキルは、今後採用する人材に欠かせないものとなっている。

サービス介助の必要性については、今後我が国の高齢化がが速度的に進むことがわかっており、看護師だけでなく受付などを担当する事務部門でもサービス介助スキルやホスピタリティマインドの向上をはかり、「選ばれる病院」になろうとする努力が随所で見られた。

子育て後の女性等の採用については、年齢や経験よりも「人柄」を重視して採用するという意見が目立った。サービス介助やホスピタリティマインドを身につけたほうが再復帰に有利であることが裏付けられた形である。子育て後の女性は高齢化が進む地域の中で貴重な労働資源であり、今後ますます活躍する場面が広がると予測される。

こうした状況をもとに、子育て等で医療現場を離れていた者がより一層スムーズに再就職できるよう、「電子カルテ」と「サービス介助」双方の講座を短期間で効果的に学ぶことができるカリキュラムを構築、現場への復帰を支援することとした。

②事業により得られた成果

以下の項目を達成することを目的としたカリキュラムを構築し、講座を展開した。

- ・電子カルテの関連知識(定義、業務の流れ)などを通じ、電子カルテのメリットを理解する
- ・電子カルテの基本的な操作方法を理解する
- ・実際に電子カルテを操作し、医療機関や患者の情報により異なる操作方法を理解する
- ・例題演習を通じ、様々な電子カルテ入力方法を理解する
- ・実技問題を行い電子カルテと医事コンピューターの違いを理解する
- ・サービス介助の概要と必要性を理解する
- ・ノーマライゼーションの視点と必要性を理解する
- ・ホスピタリティマインドとその実践を理解する
- ・障がい者や高齢者を取り巻く社会的状況と身体的特徴を理解する
- ・障がいに対する介助、誘導の方法や仕組み、車いす等の操作法を理解する

計画時点では、講座の実施時間を電子カルテ15時間、サービス介助20時間と想定し、教材と講師それぞれの調整を行った。電子カルテについては、昨年度「もう少し演習の時間があつたほうが良い」とのご意見があつたこと、サービス介助については実習に相当の時間が必要と判断したためである。しかし、募集にあつてのリサーチや講師と調整した結果、短期間で効果的に学ぶことができるようカリキュラムを工夫することで、時間を短縮して実施した。

受講者は、事業実施協力企業、機関を通じて、医療関係への就職を目指している一般の女性に対する告知を行った。また、各地の病院の待合室等に設置されているフリーペーパー、「カルナの豆知識」の発行元の協力を得て、本講座の紹介記事を掲載していただいた。これらの結果、蒲田校、八王子校それぞれ20名ずつの募集に対し、蒲田校25名、八王子校14名の申込があつた。蒲田校、八王子校各3名ずつ当日欠席があり、最終参加者数は蒲田校22名、八王子校11名、合計33名である。

受講者に対して、今回の講座が医療機関への就職または再就職に役立つと思うかどうかを問うアンケートでは、蒲田校が22名全員、八王子校でも11人中10人が「役立つ」と答えている。コメントとしては、車いすの操作や誘導など見ているだけでは簡単そうなことが実際にやってみると大変だった、あるいは、電子カルテを学んだことで病院内の仕事の流れが理解できた、電子カルテの機能に感動し今後も学びたいと思った、などという意見をいただいた。なお、資格取得を目的とした講座ではないため、合格実績のような数値的達成度はないが、時間と予算が許せば受講者の就職についての追跡調査を行うこととしたい。

③今後の活用

今回実施した講座は、医療機関への就職・再就職を目指している女性を対象に、電子カルテシステムやサービス介助のスキルを学んでいただくことをねらいとした内容である。

今年度初めて取り組んだ「サービス介助」は、医療機関など公共性の高い施設においては必要不可欠なものであり、大手百貨店や鉄道会社などでも積極的に導入が進められている。本事業における「サービス介助」は、ホスピタリティやノーマライゼーションの思想を介助の中に取り入れた、「ソーシャル・ヒューマン・ネットワークワーキング・サービス(Social Human Networking Service)」であり、人と人とのつながりを促進し、高齢者や障がい者を積極的にサポートすることを意味している。サービス介助の浸透は、障害のある、なしにかかわらず、誰もが共に生きてゆく社会の中で、必要不可欠なものである。段差の解消やエスカレータの設置など、ハードウェア資源の整備だけでなく、介助する側、される側のいわば「心のバリアフリー」を実現させるという理念がある。

「サービス介助」は、人と接する機会のあるあらゆる業種・職種で今後ますます必要となるスキル・マインドであり、これまで取り組んできた「電子カルテ教育」とともに、今後本校で取り組む専門教育をはじめ、各種特別講座などに活用することで、普及に努めていきたい。

④次年度以降における課題・展開

今回の講座の主たる対象者は医療事務を目指す女性であるが、医療機関で受付や会計などの事務を担当する者は、本来求められている医療事務に関する知識やITスキルはもちろんのこと、不安を抱えた患者が来院時に最初に接する人として、患者の立場や気持ちを理解し、その患者に見合った接し方ができる能力が求められていることは明白である。

我が国では2020年には4人に1人が65歳以上となり、高齢化率25%になると予測されている。今後子育て後の女性が活躍する場面が増えることは必至であり、その社会復帰をサポートするために必要となるスキルを、短期間で効率よく身につけることができる教育プログラムの整備が必要である。

これからも、本校の持つ専門性の高い職業教育に関するノウハウを活用し、子育て等で現場を離れていた者がより一層スムーズに再就職できるように様々な教育分野で支援することとしたい。

3. 事業の実施に関する項目

①講座の実施

■講座実施概要

講座名：「サービス介助士」+「電子カルテ」実務教育による就職支援（土曜集中コース）

対象者：医療業界への就職を目指して勉強中、または就労中の方で、

電子カルテ、およびサービス介助を学びたい女性の方。

日程：平成20年1月12日、1月19日、1月27日（全3回）

時間：各日とも10:00～12:00、13:00～16:00

会場：①日本工学院専門学校（蒲田） ②日本工学院八王子専門学校（八王子）

受講料：無料（ただし、3回とも出席できること）

定員：①、② 各20名

■受講者プロフィール

年齢構成（全員女性である）

	蒲田校		八王子校		全体	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率
20歳代	4	18.2%	2	18.2%	6	18.2%
30歳代	12	54.5%	2	18.2%	14	42.4%
40歳代	5	22.7%	4	36.4%	9	27.3%
50歳代	1	4.5%	1	9.1%	2	6.1%
60歳代	0	0.0%	2	18.2%	2	6.1%
合計	22	100.0%	11	100.0%	33	100.0%

■受講者の反応（講座修了後のアンケート）

電子カルテの操作はいかがでしたか？

	蒲田校		八王子校		全体	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率
簡単だった	6	27.3%	2	18.2%	8	24.2%
普通	13	59.1%	8	72.7%	21	63.6%
難しかった	3	13.6%	1	9.1%	4	12.1%
合計	22	100.0%	11	100.0%	33	100.0%

「サービス介助」で学習した事柄は役立つと思いますか？

	蒲田校		八王子校		全体	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率
役立つ	20	90.9%	11	100.0%	31	93.9%
普通	2	9.1%	0	0.0%	2	6.1%
役立たない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	22	100.0%	11	100.0%	33	100.0%

今回の学習は有意義でしたか（ためになりましたか）？

	蒲田校		八王子校		全体	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率
有意義であった	22	100.0%	11	100.0%	33	100.0%
普通	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
あまりためにならなかった	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	22	100.0%	11	100.0%	33	100.0%

今後、電子カルテの知識とサービス介助の知識は医療機関に就職する場合に必要になると思いますか？

	蒲田校		八王子校		全体	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率
思う	22	100.0%	10	90.9%	32	97.0%
思わない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
わからない	0	0.0%	1	9.1%	1	3.0%
合計	22	100.0%	11	100.0%	33	100.0%

②就職または再就職への役立ち度

今回の講座が、医療機関に就職または再就職に役立つと思われましたか？

	蒲田校		八王子校		全体	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率
役立つ	22	100.0%	10	90.9%	32	97.0%
役立たない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
わからない	0	0.0%	1	9.1%	1	3.0%
合計	22	100.0%	11	100.0%	33	100.0%

両校の受講生とも著しく高い評価を得た。受講後の感想では「電子カルテはどんなものか概要が分かった。サービス介助については今後病院その他でも役立つと思った」、「介助の件は楽しく基礎知識を学ぶことができ、電子カルテも今までまったく異なる業界にいたので一連の流れなども把握できた」、「ほとんど知らない知識。学ぶ機会がなかったのでとても良かった。これからの就職活動や家族のために今回学んだことをフルに使おうと思う」など。今後の自身の就職に役立ったり、医療機関に従事する上で必要な経験ができたということをあげている。

③その他

昨年、一昨年と改良を加えてきた電子カルテ教育に加え、今回、「サービス介助」というものに取り組んだ。事前に行った視察調査によってその重要性と医療機関における教育ニーズを明確にすることで、短期間に効果的に学習するためのカリキュラムを構築するとともに、受講者全員から「有意義であった」というアンケート回答をいただくなど、たいへん高い満足度を得ることができた。